

主催者挨拶

徳永 保

(国立教育政策研究所長)

徳永 保（国立教育政策研究所長）

第29回教育研究公開シンポジウムの開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げますと存じます。まずは皆様方、大変暑い中シンポジウムに御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。また、御参会の皆様方の中には、本研究所が研究活動を行うに当たりまして様々な御協力をいただいた方も多数おられると思います。改めてお礼申し上げます。

この教育研究公開シンポジウムは、国立教育政策研究所の研究成果を具体的に教育現場や国民の皆様へ直接還元することによって、学校運営、教育内容、あるいは教育指導法の改善などに役立ててもらおうという趣旨で平成2年度から始まりました。

本日のシンポジウムのテーマであります読書活動の意義につきましては、これからシンポジウムの中で報告がされ、討論されるわけですが、私どもなりに考えている基本的なところを申せば、ここ20年間、生涯学習という考え方に立ち、その基礎を培うものは学校教育であると考えております。そして人間の知的活動が基盤となって自分自身を永続的に向上させていくことが現在求められておりますし、そのような知的活動を支えるものは、言語理解力であり、言語表現力に他ならない訳であります。そういう言語理解なり言語表現力を小・中学校の段階で培い、また、生涯にわたって自己向上を図っていく、そうした基盤を培うことが読書活動にほかならないことは申すまでもありません。

平成13年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」、平成17年の「文字・活字文化振興法」が国会の先生方の賛同を得て制定・実施されているのも、子どもや大人のための読書活動推進の意義というものが社会的に理解されたからこそでありますし、このことを踏まえて、多くの都道府県、市町村、学校現場で、それぞれ読書活動が推進され、具体的に行われています。

こうした中、私ども国立教育政策研究所におきましては、既に平成16年度から18年度にかけて、「生涯にわたる読書能力の形成に関する総合的研究」を

実施いたしました。この結果によりますと、小学校段階に比べ中学校段階で読書率が下がる、同時に成人の読書率も低く、1カ月全く本を読まなかった方が2割もいるといった結果が出ております。

小学生や中学生では、読書によって、人への思いやりといった共感性の問題、あるいは社会的スキルについても差が出てくることも明らかになっております。テレビなどほかのメディアではそうした影響力がないということも明らかになっております。

こうした先行する研究活動をさらにより確かなものとし、今後の国の教育行政、あるいは教育委員会や学校現場における活動につなげるという問題意識を持って、「言語力の向上をめざす生涯にわたる読書教育に関する調査研究」が平成19年度から21年度にかけて行われたわけです。本日はまさに、その成果を発表するわけですが、本研究の第一の特色は、生涯学習の観点に立った読書教育に関する研究という点でございます。読書活動については小学生から中学生、大学生や成人を対象にした調査研究を行っております。次に、読書活動における成果として、具体的で測定可能な指標である読解力などの言語力を前提に、読書活動と言語力の関係に焦点を当てて研究をしております。

本日はこの調査研究の報告を行いますとともに、学校図書館アドバイザーとして多くの学校図書館の改善に取り組んでおられる五十嵐先生の講演や、文部科学省をはじめとした読書教育施策の実践例の紹介、あるいはパネルディスカッションを通じた読書教育に関



する議論を深めていただければと思います。

調査研究に当たりましては、私ども研究所のメンバーに加えまして、今日お越しいただきました五十嵐先生、福岡教育大学の井上先生、福岡県宇美町立図書館長の八谷先生、日本子どもの本研究会の黒澤先生にも御参加いただきました。各先生方には御多忙の中、御出席いただきましたことを、改めてお礼を申し上げたいと思います。

本日は、それぞれの先生方から忌憚のない御意見をいただき、私どもの調査研究活動が今後の皆様にとって実り多いものとなると同時に、このことをそれぞれの現場に持ち帰っていただいて、明日からの学校教育活動、あるいは各地域の図書館活動、生涯学習活動、社会教育活動に生かしていただくことを期待しているわけでございます。

近年、様々な施策についてエビデンスベースで検証していくことが必要になってきております。これまではどちらかといいますと、様々な審議会の中で関係者が集まって意見を述べ、そのことを施策にしていくことが求められてきたわけですが、今日ではそういったことに加え、真にそういう施策は効果があるのか、あるいは具体的にどういう成果をもたらしたのかということをきちんと検証することが求められております。私どもとしては、そういうエビデンスベースでの検証を具体的な形で明らかにして、文部科学省が様々な展開してきた読書推進施策の効果や成果、そして今後の改善に向けての課題といったものが本日のシンポジウムを通じて浮き彫りになれば大変幸いと思います。同時に、皆様におかれましては、明日からの活動に役に立つことを心から御祈念いたしまして、私からの冒頭のご挨拶とさせていただきます。